

提言第12号 胸腔穿刺に係る死亡事例の分析

事例8

< 事例概要 >

- ・ 70 歳代の患者。
- ・ 右膿胸に対し、呼吸器外科で胸腔穿刺を実施。
- ・ 事前にCT 画像、穿刺直前に超音波画像で胸水の貯留を確認。穿刺部位は、右第 9 肋間背側を選択。
- ・ 試験穿刺で泥状の胸水を確認。カテーテルを留置し、約 2 週間後排液がないため抜去したところ、抜去部から動脈性の出血と多量の喀血があり、経皮的動脈血酸素飽和度（SpO₂）の低下と血圧測定不能となった。造影CT 検査で肋間動脈損傷を認め、カテーテル抜去当日死亡。
- ・ 死因は、肋間動脈損傷による出血性ショックと喀血による窒息。死亡時画像診断（Ai） 無、解剖無。